



- ・ 空港は白保海岸ギリギリに迫り、その最狭部分は防潮林(潮害防備保安林)との間が20m前後しかない。ここに付替道路が通される予定。
- ・ 空港北端部は約25mの高さまで盛土される。8~9階建ての超巨大ビルが海岸線ギリギリに建つようなものである。
- ・ A、B、C、D、E は絶滅危ぐ種のコウモリ3種が生息、繁殖している洞くつの入り口。B、C、E洞くつは完全に破壊される。A洞くつも実は海側に390m延びていて奥部は予定地内にかかり、そこを多数のコウモリがねぐらとしている。Dは3000頭のカグラコウモリ(絶滅危惧種1B類)が発見された洞くつで、その生息数は国内最大といわれている西表島大島第一洞くつに次ぐ。
- ・ アは国の特別天然記念物カンムリワシの営巣木が発見されたカタフタ山。この西側の山にも別のカンムリワシの営巣木が見つかっている。これらの山頂には航空障害灯が設置される予定で、繁殖への影響が懸念されている。
- ・ 空港予定地内および周辺にはレッドデータブックなどに記載されている希少な動植物が196種(うち絶滅危惧種1A、1B類は33種)、確認されている。沖縄県はそのうちの31種を移動・移植して保全するとしている。
- ・ 予定地には地下水系が走っており、白保の海に流れ込んでいる。そのさまざまな影響を受けて白保サンゴ礁生態系は成り立っている。

